

シマウマは“縞のあるロバ”

アニマルフォトグラファー
トラベルライター

平 岩 雅 代

シマウマの縞模様は、芸術的です。一見同じように見えますが、実はふたつと同じ模様を持つシマウマはいません。ヒトの指紋と同様で、親子でさえもよく見ますと、微妙に違う模様だということがわかります。

アフリカに現存するシマウマは3種類で、赤道よりも北のケニア山ろくから、エチオピア、ソマリア近くに分布するグレビーシマウマ、最も数が多く、エチオピア南部からケニア、タンザニア、ナミビア、南アフリカにまで分布するグラントシマウマ、そしてジンバブエ、アンゴラなどに分布するチャップマンシマウマがそれぞれです。

グレビーシマウマは大きな丸い耳をしていて、体全体に幅の細い縞模様があり、尾の付け根から尻の上にかけてと、腹部が白いのが特徴です。

一方のグラントシマウマは鼻先が黒く、耳が細長いのが特徴。黒と白の縞の幅は広く、はっきりしています。オスとメスを比較してみると、メスはこげ茶色と白の模様の組み合わせですが、オスはひときわ鮮やかな黒と白の模様の組み合わせです。

もっとも生まれたばかりの赤ん坊は明るい茶色と白の模様の組み合わせで、体毛全体も長さが不揃いのように見えます。

チャップマンシマウマは黒と白の模様に加えて、白地の部分にもう一本の薄い筋があります。このようにひとくちにシマウマといっても体の模様によって違う種類なのです。

ところでシマウマの目立つ縞模様は、いったい何んのためにあるのでしょうか？



写真1 目立つはずの縞模様が集団ではカムフラージュになる

諸説があり、お互いを認識するためとも、集団になることによってゴチャゴチャに見え、肉食獣の標的にされないように身を守るため、ともいわれています。実際に東京の多摩動物公園で飼育されているグレビーシ

マウマの柵の一角には、黒と白の縞模様が描かれています。グレイビーシマウマは好んでその背景の前に立っている、という観察結果もあります。また肉食獣の目には景色が白黒テレビの画面のように映ります。そのためシマウマが木立ちの前に立つと、目立つはずの縞模様が周囲の景色に溶け込んで目立たなくなるから、という説もあります。

ところで英語でシマウマのことを養ゼブラ”といいますが、横断歩道は赴ゼブラ・ゾーン”(シマウマの地帯)と表現します。いわれてみますと、なるほど……と納得できますね。

東アフリカの公用語スワヒリ語では、シマウマのことを“ブンダ・ミリア”といいますが、“ブンダ”は“ロバ”、“ミリア”は“縞”のある”という意味になります。つまりシマウマは、ウマというよりもロバに近い動物ということになります。

一方、日本語の“シマウマ”はスワヒリ語の“止まれ”に当たる“シママ”という単語と発音がそっくりです。日本人が「シマウマだ、シマウマがいるぞ」と日本語で話そうものなら、スワヒリ語を話す人たちは「止まれ」と命令されたのだと思ってしまいます。面白いですね。



写真2 突然鳴き出した2頭のシマウマ。
まるでイヌの声のようー。

シマウマは顔に似合わず、カン高いイヌのような声で鳴きます。唇をめくるようにひしゃげて歯をむき出し、大きな声で鳴くのですが、おとなしく草を食べているシマウマの姿からは想像ができないほどです。

水と草を求めて群れで行動するシマウマはメスだけでなく、オスも子を守ります。

ライオンの標的になることも少なくありませんが、実は、蹴る”という強力な武器を持っています。追われるシマウマが死にも狂いでライオンを蹴り、とうとう逃げ切った、という話も、珍しいことではありません。

ケニアで多くの野生動物が暮らす大草原のまん中に建つホテルの中庭で、私は夕食後一頭の野生のシマウマと鉢合わせし、ドキッとしたことがあります。もっとも人間が攻撃しなければ、シマウマから人間を襲うことはない、という話しでしたが……。

〈シマウマひとくちメモ〉

▶シマウマの体重はメス160～200kg、オスで230～280kgほど。妊娠期間は約1年、生まれて1年半ほどで成獣になる。野生のシマウマの寿命は25年前後といわれる。

▶シマウマの模様は黒地に白か、白地に黒か、という疑問を抱く人が少なくないが、グレイビーシマウマのように腹や尻が白い例を考えると、白地に黒い筋という説が正しいようだ。ところであなたのお考えは？